

平成19年3月19日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成19年1月31日厚生労働省発食安第0131001号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくカズサホスに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

カズサホス

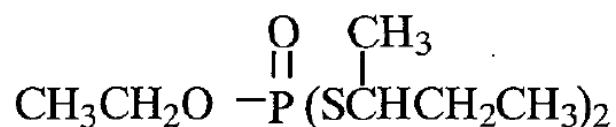
1. 品目名：カズサホス (cadusafos)

2. 用途：殺線虫剤

有機リン系殺虫剤である。作用機序は、アセチルコリンエステラーゼ活性を阻害することにより殺虫活性を示す。

3. 化学名：S, S-ジ-*sec*-ブチル=O-エチル=ホスホロジチオアート

4. 構造式及び物性



分子式 C₁₀H₂₃PS₂O₂
分子量 270.04
水溶解度 241 mg/L (20°C)
分配係数 logPow = 4.08 (20°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

3% マイクロカプセル剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カズサホスを含む農薬の総使用回数
だいこん	キスジノミハムシ	20~30kg/10a	播種前	1回	全面処理 土壌混和	1回
	ネゴセンチュウ	20kg/10a				
	ネゴサレセンチュウ	20~30kg/10a				
きゅうり	ネゴセンチュウ	20~30kg/10a	定植時			
すいか						
メロン						
トマト						
なす						

にんにく	ネグサセンチュウ	30kg/10a	植付前	1回	全面処理 土壌混和	1回
さといも	ネグサセンチュウ	20~30kg/10a				
かんしょ	ネコブセンチュウ	10~30kg/10a				
	ハリガネムシ コガネムシ類	20~30kg/10a				
	コガネムシ類	9kg/10a	作条処理 土壌混和			
きく	ネグサセンチュウ	20kg/10a	定植前	1回	全面処理 土壌混和	1回
キャベツ	ネグサセンチュウ					
レタス	ネグサセンチュウ					
ほうれんそう	ネコブセンチュウ		播種前			
いちご	ネグサセンチュウ		定植前			
<u>えだまめ</u>	シストセンチュウ		播種前			
<u>だいず</u>	シストセンチュウ		播種前			
<u>しそ</u>	ネコブセンチュウ		定植前			
<u>ねぎ</u>	ネコブセンチュウ		定植前			
<u>ばれいしょ</u>	シストセンチュウ		植付前			

下線部分 () は適用拡大申請中の内容

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

カズサホス

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出してアセトンを留去した後、C18 ミニカラム及びフロリジルミニカラムにより精製し、ガスクロマトグラフィー (NPD) を用いて定量する。

(2) 作物残留試験結果

① きゅうり

施設栽培のきゅうり (果実) を用いた作物残留試験 (2例) において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和 (30kg/10a) したところ、施用後 35~49、38~52 日の最大残留量は、それぞれ 0.006, 0.012 ppm であった。

②すいか

施設栽培のすいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後95～102日の最大残留量は、0.002, <0.001 ppmであった。

③だいこん（根部）

露地栽培のだいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後57～71、64～78日の最大残留量は、それぞれ0.010, 0.007 ppmであった。

④だいこん（葉部）

露地栽培のだいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後15～71、13～78日の最大残留量は、それぞれ0.010, 0.004 ppmであった。なお、施用後13, 15, 18, 22日における試験は、つまみ菜、間引き菜としての利用を想定している。

⑤かんしょ

露地栽培のかんしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後120～134、109～123日の最大残留量は、それぞれ0.004, 0.002 ppmであった。

⑥トマト

施設栽培のトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後49～63、53～67日の最大残留量は、それぞれ<0.001, 0.001 ppmであった。

⑦メロン

施設栽培のメロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後76～90、89～103日の最大残留量は、それぞれ0.003, 0.004 ppmであった。

⑧にんにく

露地栽培のにんにく（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後249～263、215～229日の最大残留量は、それぞれ<0.005, <0.005 ppmであった。

⑨なす

施設栽培のなす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後37～51、59～73日の最大残留

量は、それぞれ<0.005, <0.005 ppmであった。

⑩さといも

露地栽培のさといも（塊茎）を用いた作物残留試験(2例)において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（30kg/10a）したところ、施用後135～149、159～173日の最大残留量は、それぞれ0.008, 0.007 ppmであった。

⑪キャベツ

施設栽培のキャベツ（葉球）を用いた作物残留試験(4例)において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後61～75、75～89日、102～116日、64～78日の最大残留量は、いずれも<0.001 ppmであった。

⑫レタス

施設栽培のレタス（茎葉）を用いた作物残留試験(4例)において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後55～69、43～57日、49～63日、64～78日の最大残留量は、それぞれ<0.001, 0.002, 0.005, <0.001 ppmであった。

⑬ほうれんそう

施設栽培のほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験(6例)において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後47～61、35～49日、33～47日、36～50日、39～53日、41～55日の最大残留量は、それぞれ0.005, 0.004, 0.003, 0.004, 0.026, 0.008 ppmであった。

⑭いちご

施設栽培のいちご（果実）を用いた作物残留試験(4例)において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後97～111、62～76日、86～100日、124～138日の最大残留量は、<0.001, 0.013, <0.001, <0.001 ppmであった。

⑮だいず

露地栽培のだいず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後133～147、123～137日の最大残留量は、それぞれ<0.001, <0.001 ppmであった。

⑯えだまめ

露地栽培のえだまめ（さや）を用いた作物残留試験(2例)において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後78～91、66～80日の最大残留量は、それぞれ0.002, <0.001 ppmであった。

⑰しそ

施設栽培のしそ（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後42～56、56～70日の最大残留量は、それぞれ<0.001, 0.108 ppmであった。

⑱ねぎ

露地栽培のねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後157～171、51～65日の最大残留量は、それぞれ<0.001, 0.001 ppmであった。

⑲ばれいしょ

露地栽培のばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（4例）において、3%マイクロカプセル剤を1回土壌混和（20kg/10a）したところ、施用後134～148、88～102日、98～112日、96～110日の最大残留量は、0.008, 0.005, <0.001, <0.001 ppmであった。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注）最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

7. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成18年7月18日付厚生労働省発食安第0718040号により食品安全委員会あて意見を求めたカズサホスに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：0.025 mg/kg 体重/day

（動物種） ラット

（投与方法） 混餌投与

（試験の種類） 繁殖試験

（期間） 2世代

安全係数：100

ADI：0.00025 mg/kg 体重/day

8. 諸外国における状況

コーデックス、米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、コーデックスではばれいしょ、バナナに、米国でバナナに、ま

たオーストラリアでしょうが、かんきつ類、さとうきび等に基準値が設定されている。その他の国、地域については、残留基準は設定されていない。

9. 基準値案

(1) 残留の規制対象

カズサホス本体

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

なお、カズサホスには既に食品衛生法に基づく残留農薬基準が設定されている。今回変更を予定している基準値については、下線を付して示した。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のカズサホスが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量(理論最大摂取量(TMDI)又は推定一日摂取量(EDI))のADIに対する比は、以下のとおりである。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。詳細な暴露評価については、別紙3を参照。

	推定摂取量／ADI (%) ^{注)}
国民平均	14.4
幼小児 (1～6歳)	30.6
妊婦	11.9
高齢者 (65歳以上)	15.8

注) 個別の作物残留試験成績がある食品についてはEDI試算、それ以外の食品についてはTMDI試算を行った。

TMDI試算：基準値案×摂取量

EDI試算：作物残留試験成績の平均値

カズサホス作物残留試験成績一覧表

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
きゅうり (施設)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	35, 42, 49 日	圃場 A:0.006
			30kg/10a		38, 45, 52 日	圃場 B:0.012
すいか (施設)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	95, 102 日	圃場 A:0.002
			30kg/10a			圃場 B:<0.001
だいこん* (根部) (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	57, 64, 71 日	圃場 A:0.010
			30kg/10a		64, 71, 78 日	圃場 B:0.007(78 日)
だいこん (葉部) (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	15, 22, 57, 64, 71 日	圃場 A:0.010
			30kg/10a		13, 18, 64, 71, 78 日	圃場 B:0.004
かんしょ (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	120, 127, 134 日	圃場 A:0.004
			30kg/10a		109, 116, 123 日	圃場 B:0.002
トマト (施設)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	49, 56, 63 日	圃場 A:<0.001
			30kg/10a		53, 60, 67 日	圃場 B:0.001
メロン* (施設)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	76, 83, 90 日	圃場 A:0.003(83 日)
			30kg/10a		89, 96, 103 日	圃場 B:0.004
にんにく (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	249, 256, 263 日	圃場 A:<0.005
			30kg/10a		215, 222, 229 日	圃場 B:<0.005
なす (施設)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	37, 44, 51 日	圃場 A:<0.005
			30kg/10a		59, 66, 73 日	圃場 B:<0.005
さといも* (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	135, 142, 149 日	圃場 A:0.008(149 日)
			30kg/10a		159, 166, 173 日	圃場 B:0.007(173 日)
キャベツ (施設)	4	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	61, 68, 75 日	圃場 A:<0.001
					75, 82, 89 日	圃場 B:<0.001
			20kg/10a		102, 109, 116 日	圃場 C:<0.001
					64, 71, 78 日	圃場 D:<0.001
レタス (施設)	4	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	55, 62, 69 日	圃場 A:<0.001
					43, 50, 57 日	圃場 B:0.002
			20kg/10a		49, 56, 63 日	圃場 C:0.005
					64, 71, 78 日	圃場 D:<0.001
ほうれんそう* (施設)	6	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	47, 54, 61 日	圃場 A:0.005
					35, 42, 49 日	圃場 B:0.004(42 日)
					33, 40, 47 日	圃場 C:0.003
			20kg/10a		36, 43, 50 日	圃場 D:0.004
					39, 46, 53 日	圃場 E:0.026
					41, 48, 55 日	圃場 F:0.008(48 日)

いちご※ (施設)	4	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	97, 104, 111 日	圃場 A:<0.001
					62, 69, 76 日	圃場 B:0.013(69 日)
			20kg/10a		86, 93, 100 日	圃場 C:<0.001
					124, 131, 138 日	圃場 D:<0.001
<u>だいず</u> (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	133, 140, 147 日	圃場 A:<0.001
			20kg/10a		123, 130, 137 日	圃場 B:<0.001
<u>えだまめ</u> ※ (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	78, 85, 91 日	圃場 A:0.002(85 日)
			20kg/10a		66, 73, 80 日	圃場 B:<0.001
<u>しそ</u> (施設)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	42, 49, 56 日	圃場 A:<0.001
			20kg/10a		56, 63, 70 日	圃場 B:0.108
<u>ねぎ</u> ※ (露地)	2	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	157, 164, 171 日	圃場 A:<0.001
			20kg/10a		51, 58, 65 日	圃場 B:0.001(58 日)
<u>ばれいしょ</u> ※ (露地)	4	3%マイクロカ プセル剤	土壌混和	1回	134, 141, 148 日	圃場 A:0.008
					88, 95, 102 日	圃場 B:0.005(102 日)
			20kg/10a		98, 105, 112 日	圃場 C:<0.001
					96, 103, 110 日	圃場 D:<0.001

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。※印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用した。また、今回適用拡大申請中の作物には、二重下線を付した。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「カズサホス」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	国際	外国	作物残留試験成績 ppm
				基準 ppm	基準値 ppm	
大豆	<u>0.01</u>		申			<0.001, <0.001
ばれいしょ	<u>0.03</u>	0.02	申	0.02		0.008(\$), 0.005, <0.001, <0.001
さといも類(やつがしらを含む)	0.03	0.03	○			0.008, 0.007
かんしょ	0.02	0.02	○			0.004, 0.002
さとうきび	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.05	0.05	○			0.010, 0.007
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	0.05	0.05	○			0.010(\$), 0.004
キャベツ	0.01	0.01	○			<0.001, <0.001, <0.001, <0.001
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	0.02	0.02	○			<0.001, 0.002, 0.005(\$), <0.001
ねぎ(リーキを含む)	<u>0.01</u>		申			<0.001, 0.001
にんにく	0.02	0.02	○			<0.005, <0.005
トマト	0.01	0.01	○		0.01 オーストラリア	<0.001, 0.001
なす	0.02	0.02	○			<0.005, <0.005
きゅうり(ガーキンを含む)	0.05	0.05	○			0.006, 0.012
かぼちや		0.05				
すいか	0.01	0.01	○			0.002, <0.001
メロン類果実	0.02	0.02	○			0.003, 0.004
ほうれん草	0.1	0.1	○			0.005, 0.004, 0.003, 0.004, 0.026(\$), 0.008
しょうが	0.1	0.1			0.1 オーストラリア	
えだまめ	<u>0.01</u>		申			0.002, <0.001
みかん	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
なつみかんの果実全体	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
レモン	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
グレープフルーツ	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
ライム	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
その他のかんきつ類果実	0.01	0.01			0.01 オーストラリア	
いちご	0.05	0.05	○			<0.001, 0.013(\$), <0.001, <0.001
バナナ	0.01	0.01		0.01	0.01 アムカ	
その他のハーブ	<u>0.5</u>		申			<0.001, 0.108(\$)

注) 基準値案のうち、今回変更を予定している基準値について下線を付した。

注) "\$"で示した、ばれいしょ、だいこん類の葉、レタス、ほうれん草、いちご及びその他のハーブは、作物残留試験成績のばらつき等を考慮し、最大残留値を暴露評価に用いた。

(別紙3)

カズサホス推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民平均 TMDI	国民平均 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) EDI	妊婦 TMDI	妊婦 EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) EDI
大豆	0.01	0.001	0.56	0.06	0.59	0.06	0.46	0.05	0.34	0.03
ばれいしよ	0.03	0.004	1.10	0.15	0.81	0.11	1.19	0.16	0.64	0.09
さといも類(やっがしらを含む)	0.03	0.008	0.35	0.09	0.52	0.14	0.24	0.06	0.17	0.05
かんしょ	0.02	0.003	0.31	0.05	0.34	0.05	0.28	0.04	0.35	0.05
さとうきび	0.01	0.01	0.13	0.13	0.12	0.12	0.10	0.10	0.11	0.11
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.05	0.009	2.25	0.41	2.93	0.53	1.44	0.26	0.94	0.17
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	0.05	0.007	0.11	0.02	0.17	0.02	0.05	0.01	0.03	0.00
キャベツ	0.01	0.001	0.23	0.02	0.20	0.02	0.23	0.02	0.10	0.01
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	0.02	0.002	0.12	0.01	0.08	0.01	0.13	0.01	0.05	0.01
ねぎ(リーキを含む)	0.01	0.001	0.11	0.01	0.14	0.01	0.08	0.01	0.05	0.00
にんにく	0.02	0.005	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
トマト	0.01	0.001	0.24	0.02	0.19	0.02	0.25	0.02	0.17	0.02
なす	0.02	0.005	0.08	0.02	0.11	0.03	0.07	0.02	0.02	0.00
きゅうり(ガーキンを含む)	0.05	0.009	0.82	0.15	0.83	0.15	0.51	0.09	0.41	0.07
かぼちや(スカッシュを含む)			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
すいか	0.01	0.002	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
メロン類果実	0.02	0.004	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
ほうれんそう	0.1	0.008	1.87	0.15	2.17	0.17	1.74	0.14	1.01	0.08
しょうが	0.1	0.1	0.06	0.06	0.07	0.07	0.07	0.07	0.02	0.02
えだまめ	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
みかん	0.01	0.01	0.42	0.42	0.43	0.43	0.46	0.46	0.35	0.35
なつみかんの果実全体	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
レモン	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01
グレープフルーツ	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.00	0.00
ライム	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他のかんきつ類果実	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
いちご	0.05	0.004	0.02	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.02	0.00
バナナ	0.01	0.01	0.13	0.13	0.18	0.18	0.09	0.09	0.11	0.11
その他のハーブ	0.5	0.054	0.05	0.01	0.05	0.01	0.05	0.01	0.05	0.01
計			9.0	1.9	10.0	2.1	7.5	1.6	5.0	1.2
ADI比(%)			67.5	14.4	73.5	15.8	53.6	11.9	125.5	30.6

※: 個別の作物残留試験成績がなく、基準値(案)の数値を用いたものは(・)を入れた。

TMDI: 理論最大一日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

EDI: 推定一日摂取量 (Estimated Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

平成14年12月21日	初回農薬登録申請
平成16年5月13日	農薬適用拡大申請
平成16年9月27日	農林水産省から農薬適用拡大申請に係る連絡
平成16年10月5日	厚生労働大臣から食品安全委員会長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成16年10月7日	第64回食品安全委員会（要請事項説明）
平成16年12月1日	第20回食品安全委員会農薬専門調査会
平成17年5月26日	食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
平成17年6月29日	食品安全委員会（報告）
平成17年6月29日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成17年7月12日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
平成17年7月13日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成17年9月8日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
平成18年4月18日	残留農薬基準告示
平成17年9月29日	農薬登録申請（適用拡大）
平成17年12月21日	農薬登録申請（適用拡大）
平成18年7月4日	農林水産省から農薬適用拡大申請に係る連絡
平成18年7月18日	厚生労働大臣から食品安全委員会長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成18年11月20日	第6回農薬専門調査会総合評価第二部会
平成18年12月6日	第8回農薬専門調査会幹事会
平成19年1月11日	食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
平成19年1月31日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
平成19年2月14日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成19年2月22日	食品安全委員会（報告）
平成19年2月22日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

青木 宙	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
井上 松久	北里大学副学長
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所副所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
加藤 保博	財団法人残留農薬研究所理事
斎藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室助教授
佐々木 久美子	国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
志賀 正和	社団法人農林水産先端技術産業振興センター調査広報部 調査役
豊田 正武	実践女子大学生活科学部生活基礎化学研究室教授
米谷 民雄	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
山内 明子	日本生活協同組合連合会組織推進本部 本部長
山添 康	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授
吉池 信男	独立行政法人国立健康・栄養研究所研究企画評価主幹
鰐淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○：部会長)